SPTA｜13項目を見渡す

標準高次動作性検査 Clinical record / 01

氏名・ID：_____ 評価者：_____

開始日：____年____月____日 終了日：____年____月____日

1 基本機能と実施条件

使用条件	利き手： 病変側： 実施側： 資料の版：
影響する要因	麻痺・痛み・可動域・失調／感覚／視野／言語理解：
日程と範囲	実施時間： 休息： 分割日程・選択理由：

全体約90分は製品案内の目安です。実施範囲・休息を記録し、項目別の時間規則はマニュアルに従います。

2 項目別の結果・観察

項目名は学会公開資料に基づく一覧。正式な小課題得点・集計は正規用紙へ記載し、ここには条件と代表反応を残します。

項目	実施側・条件／代表反応・未実施理由
1 顔面動作	
2 物品を使う顔面動作	
3 上肢（片手）慣習的動作	
4 上肢（片手）手指構成模倣	
5 上肢（両手）客体のない動作	
6 上肢（片手）連続動作	
7 上肢・着衣動作	
8 上肢・物品を使う動作	
9 上肢・系列的動作	
10 下肢・物品を使う動作	
11 上肢・描画（自発）	
12 上肢・描画（模倣）	
13 積木テスト	

各項目を1点として合算する用紙ではありません。誤反応得点とプロフィールは使用版の規則に従い、未実施を正常反応として扱いません。

SPTA｜条件と誤りを分ける

標準条件での反応と、検査後の追加観察 Clinical record / 02

3 反応を動作の言葉で記録

例：「握りを3回変えた」「毛先が対象と逆を向いた」「同じ操作を反復」「途中で自分で修正」。成功・失敗に加え、開始・途中・終了を残します。

項目・側・条件	反応／時間・自己修正	正式得点・未実施理由

4 採点後に試した支援

正式な反応を記録した後、生活課題で手がかりを一つずつ変えます。補助後の成功は標準得点に混ぜません。

課題・変更前の反応	追加した手がかり	変更後の反応

候補：短い言葉／見本／慣れた実物と対象／配置・物品数／工程の区切り。条件差だけで失行の型を自動判定せず、理解・認知・運動の影響も確認します。

5 次に確かめたいこと

困難の仮説	
残された確認事項	
再評価でそろえる条件	

SPTA｜生活の工程へつなぐ

どこまで自分で進められたかを記録 Clinical record / 03

6 実際のADLで確かめる

対象課題：_____ 日時：_____

工程	自力で行えた内容	促し・介助とその反応
選択		
準備		
使用		
終了・片づけ		

自力工程：____／____ 促し：____回 取り違え・抜け・反復：_____
完了時間：_____ 翌日・別場面での再現性：_____

7 カルテ・申し送り

架空例：歯ブラシ単品の使用は可能。整容場面では終了後も同じ操作を反復。終了トレーを設け、一工程分の物品だけを提示すると次の工程へ移れた。次回は促しを減らし、自力での片づけ・次の物品選択を確認する。

観察した事実	
支援と反応	
次回の目標・条件	

正規資料と参考文献

日本高次脳機能学会：SPTA・正規資料・プロフィール作成
https://www.higherbrain.or.jp/publication/test/spta/

Dovern A, et al. J Neurol. 2012;259:1269–1283.
Donkervoort M, et al. Neuropsychol Rehabil. 2001;11:549–566.
Purcell S, et al. Br J Occup Ther. 87(2):67–78. doi:10.1177/03080226231201738
所要時間：サクセス・ベル SPTA製品案内 https://www.saccess55.co.jp/kobetu/detail/spta.html

公開項目一覧をもとにSTROKE LABで記録欄を編集。正式な全小課題の教示・図版・採点は正規資料をご確認ください。